

現代的教育ニーズ取組支援プログラム

H19選定 現代GP

GP = Good Practice

# PATプログラムによる 地域共生力の育成

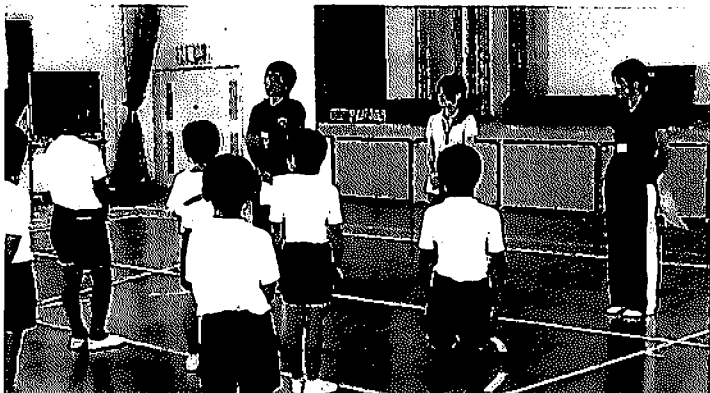
□長崎大学

PATとは、Personal Advancement Trainingの頭文字で、PATプログラムは、「教育的体験」で学んだことを積み重ねて、社会の変化に柔軟に対応できる幅広い人材（教員）を養成するために設定された蓄積型体験学習です。〈表〉に示した6つの実習分野から成り立っており、いずれの体験分野においても学生が自ら高めたい課題を定め、実習対象施設との連絡・調整をすることを基本としています。同時に実習のフィールドにおいて学生が地域の人々とかかわり、学生のかかわりを大学教員がサポートすることで相互に地域と共生できるタフな教員の養成を目指しています。

## 6実習分野の内容と実習時間

実習分野	内容	実習時間
①学習支援実習	幼稚園、小学校、中学校、高等学校での長期にわたる学習支援体験	必修 60時間以上
②離島実習	離島の小・中学校での少人数学校教育体験および地域理解体験	選択 20時間以上
③企業実習	民間企業や官公庁での多様な業務体験	
④教育関連施設実習	公民館、少年自然の家、図書館等での学校外教育支援体験	
⑤イベント実習	音楽会、展覧会、体育大会、競技会等の企画・運営・実践体験	
⑥ボランティア実習	フリースクール、学童クラブ、PTA、子どもの居場所、子育て支援組織等での支援体験	

離島実習（全校集会での実習生 2007年9月27日）  
宮崎市三島小学校大島本校において、全校集会で3名の実習生があいさつと自己紹介を行い実習のスタートとなった



ボランティア実習（「いきいき広場」の親子夏祭り2007年8月25日）放課後の子どもの居場所と不登校児の居場所として設けられた「いきいきひろば」の親子夏祭りでのボランティア実習の学生たちが出店を開いた

## 方法

必修分野の①学習支援実習と②～⑥の分野のいずれかひとつ以上を組み合わせ、3年生から4年生にかけて通年で80時間以上の実習を行います。

実習受け入れ先は、各市教委や関連機関・ボランティア団体に対し、受け入れ希望調査を実施したり、受け入れ依頼を行ったりして確保しています。実習先の決定は、学生の希望を学生による部会が調整することによって行われ、サポート教員が運営の円滑化を図ります。そのうえで、実習内容や日程等は学生が実習先と直接交渉します。

## 実績と成果

平成19年度は、4年生では学習支援実習に53校191名参加し、離島実習に7校38名、企業実習に10社14名、教育関連施設実習に7施設24名、イベント実習に12企画54名、ボランティア実習に16事業56名が参加しました。

学習支援実習では、1学期に60時間を終了した学生もいますが、本人の希望や学校の依頼に応じて今後も継続的に支援を行っているケースが多くあります。離島実習は、受け入れ学校との連絡調整や船舶での移動、生活習慣の異なる地域での生活や少人数学校での子どもとかかわりなどの困難さや戸惑いがありましたが、学生は積極的にチャレンジし自己を高め、地域と共生できたと評価しています。

平成20年度からは学生、事務、教員ともにWeb上で計画書・報告書などの書類の入出力や連絡等が可能になり、より効果的なプログラムが展開できるものと期待しています。

（教育学部附属教育実践総合センター教授 小原遼朗）

住所：〒852-8521 長崎市文教町1-14

TEL：095-819-2294

URL：http://tech.edu.nagasaki-u.ac.jp/edu/PAT\_gp.html